設楽発掘通信

No.15
平成２７年
１１月号

笹平遺跡地元説明会Ⅱを開催します。

設楽の秋はいよいよ冷え込んで参りましたが、設楽ダム関連事業に関わる発掘調査も大詰めを迎えています。本調査は川向東貝津遺跡と大栗遺跡（ともに川向所在）の二遺跡が終了し、現在は笹平遺跡（小松所在）・滝瀬遺跡（八橋所在）と大名倉丸山遺跡（大名倉所在）を行っています。範囲確認調査は大畑遺跡・上戸神遺跡（川向所在）、大名倉丸山遺跡・ハラビ平遺跡（大名倉所在）、永江沢遺跡（八橋所在）などが終了し、向橋遺跡（八橋所在）と添沢遺跡（田口所在）を進めています。

さる十一月七日には滝瀬遺跡で地元説明会を開催し、多くの方々に見学していただきました。また、十月十七日には家族の絆づくり事業「家族で歴史を体験発掘！」を開催し、四家族十名が参加し楽しんでいただきました。ありがとうございました。

さて、この五月から調査を進めています笹平遺跡ですが、八月八日に地元説明会を開催した後も、縄文時代後期を中心とした竪穴建物跡がぞくぞくと発見され、ここにきてようやく遺跡の全体像が判明してきました。つきましては、**十一月二十一日午前十一時から、地元説明会Ⅱを開催いたします**ので、皆さんふるってご参加ください。

縄文時代の暮らしぶりを想像してみませんか。

（愛知県埋蔵文化財センター　鈴木正貴）

笹平遺跡地元説明会Ⅱ 会場のご案内

11月21日（土）午前11時から、発掘現場で開催予定です。
お車でのご来跡の際は、設楽大橋西詰付近までお越し下さい。当日、係りの者が駐車場をご案内いたします。
＊開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、鈴木正貴携帯（080-1571-4982）、あるいはホームページ（http://www.maibun.com）をご覧下さい。

写真１　笹平遺跡 調査の様子

※現場内には凹凸があります。足下には十分にご注意下さい。

笹平遺跡の発掘調査

笹平遺跡の調査は、ようやく遺跡全体の様子が明らかになってきました。遺跡は、縄文時代を中心として、他にも弥生時代前期（およそ二千五百年前）の遺構が見つかっています。遺物を調べると、縄文時代後期（およそ四千年前）の遺物が多く、縄文時代中期（およそ五千年前）や晩期（およそ三千年前）、一部には早期～前期（およそ一万年前～六千年前）にさかのぼる遺物が出土しています。

遺構は、縄文時代後期の遺物が出土する竪穴建物跡が複数見つかっており、遺跡は縄文時代後期を中心とする集落跡と考えられます。竪穴建物跡は、調査区北側中央部に集中しており、東の山裾側や西の境川に近づいた斜面、南の徐々に低くなっていく場所では少なくなっています（写真2）。

縄文時代中期から後期の竪穴建物跡では、建物の中央付近に炉を設けることが多く、その周囲に柱を立てていたと思われる穴が見つかります。写真3は、炉跡部分を拡大したものです。中央に埋設した土器があり、写真上側と右側に土器を囲んでいた石（炉石）が残っていました。また、後世の耕作などによって竪穴建物跡の上部が失われることがあり、炉跡に埋設した土器や石だけが見つかるケースがあります。写真4は、炉跡に埋設した土器が残っていました。土器の周囲には、土器を安定させるための裏込め土が見られます。

縄文時代晩期から弥生時代前期では、土器を棺として用いたお墓（土器棺墓）が見つかっています。写真5・6は、今回新たに見つかった縄文時代晩期の土器棺墓です。棺は土器を二つ使用しており、口と口を重ね合わせて上下に埋設していたと思われます。下の土器内部には、小型の土器を埋設していました。

（株式会社二友組　田村典雄）

写真２　笹平遺跡全景

写真５　土器棺墓 (943SK)

写真３　竪穴建物跡の炉跡 (790SI 内 917SK)

写真６　土器棺墓 (943SK)

写真４　炉跡（3294SK）

川向東貝津遺跡の発掘調査

川向東貝津遺跡の現地の調査は十月二十一日をもって終了しました。

まず、見つかった遺物の時期は大きく二つに分かれます。ひとつは縄文時代中期～後期（およそ五千五百～四千年前）、もうひとつは縄文時代草創期（一万年二千年以上前）以前です。遺物に関しては設楽発掘通信No.11号で詳しく説明させていただきましたので、ご覧ください。

次に注目すべき遺構としては、竪穴建物跡が八棟、石囲炉が四基、埋甕が四基確認できました。調査の終盤には、石囲炉が一基非常によい状態で見つかりました。形は五角形を呈しており、竪穴建物跡の中央やや北寄りの場所で検出されました（写真7）。

もうひとつ注目すべき遺構として、集石遺構が十一基検出されました（写真8・9）。集石遺構は多量の石が集中している遺構で、縄文時代早期～前期（一万～六千年前）に多く見られます。用途は不明ですが、炉の可能性も指摘されています。実際に民族例として、同様の形で蒸し焼きを行う文化などが知られています。また今回見つかったものの中には、石が焼けた痕跡や炭化物が観察できたものもあります。

今回の調査では、遺構、遺物ともに重要な発見が相次ぎました。約五か月間におよぶ調査でしたが、今後の研究において重要な成果が得られたのではないかと思います。

（株式会社二友組　岩瀬大輔）

写真７　竪穴建物跡全景（右が北）

写真８　集石遺構検出状況

写真９　集石遺構断面

滝瀬遺跡の発掘調査

滝瀬遺跡は現在、遺構検出・遺構掘削を進めており、縄文時代中期～晩期（約五千五百年～三千年前）の土器が多数出土しています。当時の人々がこの地で生活していたと思われる遺構も多く見つかりました。

写真10の集石炉は、焼けた痕跡のある石が多く含まれています。また、写真中央の黒い部分は炭で、ぎっしりと詰まっています。当時の人が火を使い、蒸し焼き等の方法で調理等を行なっていたと考えられます。先月号で紹介した切目石錘を付けた網で魚を捕り、この集石炉で調理していたのではないか、と想像できます。

写真11も同様に焼けた痕跡のある石が多く、その中心（黄色線）には縄文時代前期（約六千年前）の土器が埋設されています。土器の口縁部は見えていますが、まだ掘り下げていないため、底の部分がどのくらい残っているか、土器の中に何か入っているかもしれないと思うと、ドキドキワクワクします。集石炉は、今回紹介したものの他に五基見つかっています。理由ははっきりとはわかっていませんが、今回見つかった集石炉のほとんどが自然の礫を壁に利用して作られています。

写真12は、竪穴建物跡です。建物の中央には石囲炉があります。通常、石囲炉は四方を囲うのですが、今回は南側の一方が残っておらず、残念に思います。

残りの調査期間も僅かとなりました。もっとたくさんの貴重な資料と出会えることを楽しみにしています。

（株式会社二友組　杉山敬亮）

写真 10　集石炉①

写真 11　集石炉②

写真 12　竪穴建物跡

縄文時代の竪穴建物跡

縄文時代の竪穴建物跡は、当時の集落を代表する遺構の一つです。設楽地区の発掘調査においても、昨年度の西地・東地遺跡、今年度の川向東貝津遺跡、笹平遺跡、滝瀬遺跡では、縄文時代の竪穴建物跡がみつかりました。今回はこの竪穴建物跡に注目してみたいと思います。

まず、縄文時代中期後半の川向東貝津遺跡の竪穴建物跡（写真13・写真14）では、平面隅丸方形の掘り方に、床面の中央からやや外れた位置に石を方形に埋め込んで設けられた石囲炉があります。一方、縄文時代後期前半の笹平遺跡の竪穴建物跡（写真15・写真16）では、平面円形から楕円形の掘り方に、床面中央から少し外れた位置に、石囲炉や埋設した土器がみられます。

この二つの遺跡にみられる竪穴建物跡には、平面（間取り）の形や炉の形に違いがあることが分かります。竪穴建物跡の平面形が、隅丸方形になるのは縄文時代中期後半から後期前半にかけて、中国地方から関東地方にかけてみられる現象です。石囲炉に埋設土器が伴うのは東日本地域に縄文時代中期からみられる炉の形態が設楽地域にも伝わってきたものと考えられます。

写真 13　川向東貝津遺跡の竪穴建物 002SI

写真 14　川向東貝津遺跡の竪穴建物 002SI の石囲炉

このような設楽地区における竪穴建物跡の調査成果も、縄文文化の地域性を考える上で貴重な成果になるものと考えられます。

（愛知県埋蔵文化財センター　蔭山誠一）

写真 15　笹平遺跡の竪穴建物 2

写真 16　笹平遺跡の竪穴建物 2 の石囲炉と埋設土器

設楽発掘通信 No.15
平成２７年１１月号
編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒４９８-００１７　愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４
電話　（０５６７）６７-４１６１【管理課】　４１６３【調査課】
ホームページ　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun
印刷・協力　株式会社 二友組